

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成23年度第1回大学情報システム研究委員会議事記録

- I. 日 時：平成23年5月16日(月)午後1時～午後3時
II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷 7F白根
III. 参加者：深澤委員長、鈴木委員、山崎委員、冬木委員、藤村委員、浜委員、西松委員、
ネットマークス、日立製作所、富士通、日本IBM、伊藤忠テクノロジーソリューションズ
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 事業計画について

- クラウドコンピューティング利用上の留意点をとりまとめ、大学教育の充実に向けた情報システムの再構築について、経費節減や負担軽減の導入モデル、大学連携・産学連携による教育機能の高度化・協同化の教育モデルの研究を進めることにしている。また、クラウドと連動させた高機能携帯端末の活用方法について、アンケートを行い、参考情報を紹介することを計画としている。(10月の理事会で携帯端末の活用方法については、大学での利用が進んでいないため延期とした)

2. 「クラウドコンピューティングによる大学の情報システムについて」委員の意見

- 社会インフラとしてクラウドが整ってきたがリスクが懸念されているので、うまく使い、ニーズ要件を考慮する必要がある。
- 震災に対してクラウドが使えるのかの問いがあるが、ケースバイケースでどこにあっても対応できるわけではなく、ネットワーク寸断、電力不足等もあり、実態として100%の保証はない。
- Webサーバを関東に委託したが、計画停電で止まる可能性があった。
- 教育クラウドの構築が先と考えていたが、震災を受けて外にだしても良いかの判断がでてきた。例えば、文科省に行っている基本調査レベルなら良いかと考えている。安心安全とこれからの大学システムで、SaaS上に構築すれば大学としてコスト削減になることと考えられる。継続性の確保が必要である。
- 安否情報については考慮する点があると考え。ただし、外に出すには暗号化するルールが必要ではないか。
- 大学により、求められることに差があり、ガイドラインの提示が必要になっていて、パブリック、プライベート等を各大学で選択している。
- 全体のイメージでコスト削減がトップになっているが、クラウドに変えても費用は発生する。
- ポートフォリオの例など新しいサービスを検討する段階でクラウドを要望されてきたと考える。専用開発より早く構築できる可能性がある。また、オンデマンドなどのリソースを増やせるなどのメリットは大きいと考え、4月時点で各教員の希望容量の対策など有効と考える。
- 定型化された継続型と非定型(教育支援)の2種類あるが、利用できる部分と振り分けて考える必要があると思われる。
- 教育研究機能の多様化、高度化や教育・学習を支援する環境課題から、情報システ

ム機能の多様化が求められている。

3. 「クラウドコンピューティングによる大学の情報システムについて」の具体的変更意見
 - ・ 「1. 大学の情報システムの現状と課題」では、①に学習支援環境のための持続可能な環境整備とし、コストは②にした。以下、③セキュリティ、④利用技術への迅速性、⑤環境負荷軽減とした。
 - ・ 「2. 大学情報システムの再考」では、迅速な対応を追加し、付加価値の創造が期待される一方、情報の保管場所や管理内容などのセキュリティ面や、災害時、障害時など最適な対応の備えについて追加することにした。
 - ・ 「3. クラウドコンピューティングとは」では、共有専有の説明を留意点に移動した。
 - ・ 「4. クラウドのメリット」は、①に整備が短期間で行えるにし、環境負荷軽減を⑤に移動することにした。
 - ・ 「6. クラウド利用に当たっての留意点」は、自前による環境整備を先にし、共有、専有の順に変更することにした。共有、専有の説明・図についても「3. クラウドコンピューティングとは」から移動してまとめることにした。
4. 次回のスケジュール
 - ・ 次回はメールで日程を調整することにした。